

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292400312		
法人名	株式会社マウントバード		
事業所名	グループホームきくまの家		
所在地	千葉県市原市菊間2394-2		
自己評価作成日	令和4年3月3日	評価結果市町村受理日	令和4年6月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	令和4年3月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>新型コロナウイルス感染予防の観点から家族との面会にはLINEやZOOMを活用しオンラインも取り入れています。 事業所内においては、入居者一人一人が自分の力で暮らしやすいような住環境に調整しています。 食事の前や午後の余暇時間などを活用し、職員と体操や運動などを行っております。 月末には1か月の出来事を写真としてご家族にお便りとして郵送しております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>その人らしい暮らしを続けてもらうため、利用者には自由に過ごしてもらっている。無理強いせず、掃除や食事の準備を一緒にしたり、利用者によっては夕食後もリビングで寛いでもらっている。また、住環境を整えることに力を入れており、廊下やトイレに手作りの手すりを新たに付けたり、居室の隣にトイレを新設し、利用しやすくしている。健康維持にも取り組み、棒体操や音楽体操、テレビ体操などの運動を始めた。家族とも利用者情報を共有しており、SNSでグループを作ったり、ホームの便りは利用者個々の様子を写真に撮って載せ、家族ごとに送付している。家族アンケートでは、ホームの満足度は91%と高い評価となっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を全職員が共有し、出来る場面から少しずつ実践を行っている。	会社の理念とホームの理念を明文化している。ホームの理念は、「利用者の気持ちと動きを気付き、有する能力を最大限に活かす」ことであり、管理者・職員は共有し実践に努めている。	ホームの理念に基づいた実践について会議等で話し合ったり、理念を玄関やスタッフルームに掲示することも期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響もあり積極的には行えていないが、散歩中の挨拶や地域の理髪店の利用を行っている。	コロナ禍であり、地域との交流は十分にできていない。そのなかで、多くの入居者が地域の理髪店を利用しており、よい関係ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの影響もあり地域の人々に向けて活かしてはいるが、入居見学や相談は予約なく対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市原市からの指示により、書面にて議事次第を送付し、いただいた意見を議事録にして報告し、参考にしている。	運営推進会議は書面開催とし、2か月に1回実施している。ホームの現状や取り組み内容を送付し、返信で寄せられた意見は書面で回答しており、双方向のやり取りができています。また、議事録は会議のメンバーや家族に送付し、確認してもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターに挨拶に行き相談を受けている。	地域包括支援センターとは連携が取れており、入居の問い合わせに対応したり、運営推進会議の議事録を持参している。市の担当窓口にも議事録を送付するなど協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の玄関施錠は行わず、GPSを活用。室内では赤外線センサーを活用し、行動制限につながらないよう対応している。	身体拘束廃止の指針を整備し、委員会を3か月ごとに開催している。また、虐待や身体拘束に関する本社研修を受講した職員が、ホーム内で内容を伝達している。玄関は施錠せず、居室では家族の了解を得てセンサーを使用している利用者もいるが、解除に向けて話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回以上行われている社内研修に代表者が参加し、ユニット会議で報告している。現在、虐待防止の指針の見直しを行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ、活用はできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に利用者やご家族と事業所のホーム長が対面で説明を行い、質問に対しての説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話、メール、LINEも活用しながら自由に意見がもらえるようにしており、いただいた意見はホーム運営に活かすよう心掛けている。	コロナ禍であり、家族の面会を制限をしているため、直接話を聞く機会は少ない。家族によっては、ビデオ通話で利用者との面会後に話を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に1回の職員面談、月1回のホーム会議で意見の吸い上げを行い、反映させている。	毎月の全体会議や年2回の個別面談で意見を聞く機会がある。また、職員とはSNSを用いたやり取りもしており、意見を求めたこともある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に1回の職員面談や、LINEを活用して意見を聞いている。資格取得や契約時間変更における昇進推薦も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内のOJTとしては日常の支援毎根拠を伝えながらの説明を目指し、OFF-JTとして社内研修や外部研修への参加を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの影響もあり、外部との接触は控えている。代表者としては、zoomを活用しての同業者との意見交換や研修参加者との意見交換を行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談や入居前面談の場で本人が困っていることを言葉や行動から知る事ができるように積極的に本人の話を傾聴するよう努めているとともに、体験入居も取り入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談や入居前面談の場で家族から話しを聞き、不安に感じることや要望に対し聞くだけで終わりにせず、ホームで出来ることを伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話の中から必要としている支援を専門職として見極め、デイケアや訪問サービスなどの提案も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や掃除などの生活場面の中で、その方のできることをみつけ職員と一緒に暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院、行政手続き、季節の衣類入れ替えなどご家族に依頼を行いつつ、ご家族が対応出来ない時には職員による代行も行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響もあり、直接会うことはできないが、電話やLINEビデオ通話による親族や友人とのつながりも支援している。	コロナ禍であるが、一時期、感染者数が少なくなった時に、利用者の知人が訪ねてきたことがある。また、携帯電話を持っている人もおり、知り合いと長電話を楽しんでいる。ドライブでは利用者の自宅近くまで行くなど、馴染みの場所とのつながりを持つようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席は入居者同士の関係をみながら決めているが、本人の意志で随時変えることも行っている。また職員がつなぎになれるよう一緒に関わりをもっている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の家族からの相談は応じる姿勢はあるが、現時点で退去した本人、家族からの相談はありません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で本人の希望や意向を聞き、介護記録に、今できることを検討し支援にも取り入れている。	日々の関りの中で、意向を把握するようにしている。聞き取った内容は介護記録に記載し、支援計画に反映している。意思疎通が困難な場合は表情や仕草から思いを汲み取るようにしたり、家族から情報を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居した後においても、本人やご家族から話しを聞き、職員間で情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中での過ごし方や有する能力は介護記録として残し、職員全員が情報把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議でカンファレンスや随時聞き取りを行い、訪問診療や看護師からの意見も取り入れ、本人がより良く暮らすことができ介護計画を目指している。	利用者の生活状況を現場で観察し、現状に合った支援に取り組んでいる。介護計画は、職員の介護記録などから得た情報を参考に作成している。計画の内容はユニット会議で課題などを話し合い、見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の実践における気づきや工夫を介護記録として個別に残し、情報共有して次の実践に活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外への散歩、訪問マッサージの活用など、グループホームの介護だけに捉われないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響もあり積極的には行っていないが、近隣の理髪店など店舗の利用を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携しているクリニックとは連絡を密にとり、提携以外の病院にも情報提供してもらいながら専門的な受診も行い、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の協力医療機関の診察と週2回の訪問看護により、利用者の体調管理をしている。また、必要に応じて訪問歯科医も来訪している。医療とは24時間連絡が取れる体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2日ホームの看護師に情報を伝え、助言をもらったり医療処置を行ってもらっているとともに、24時間電話連絡がとれるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	新型コロナウイルスの影響もあり面会に行くことはできないが、電話での状況把握を病院や家族と行った。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のケースはまだないが重度化の指針や重度化や終末期が考えられる場合に話し合いの場を設けることを入居契約の際説明している。	「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」について契約時に本人・家族に説明し意向を確認している。適宜に医療関係者や家族と連絡を取っている。利用者が食べたい物を食べられるように工夫しながら、終末期を過ごせるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回以上行われている社内研修に代表者が参加し、ユニット会議で報告しているが全職員に実践力が身につけているとはいえない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練によって避難できる方法の訓練を行っているが、地域との協力体制はまだ築けていない。	年2回、日中・夜間の避難訓練をおこなっている。車いす利用者も含め、全員が避難階段を利用した訓練を実施した。	災害対策マニュアルを整備し、避難訓練実施後には、振り返りをして記録することが望まれる。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	慣れた言葉遣いにならないよう、普段の関わりの中で気になる言葉を随時伝えるように心がけている。	日ごろから言葉遣いには配慮している。また、プライバシーに関わることは大きな声で話したりしないことや、トイレ誘導などもさりげなくおこなうようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物の選択、衣類の選択、入浴時間など自己決定出来る場面ができるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全員が決まった時間に同じことをするのではなく、その日に過ごしたいこと、その時間にやりたいことを聞きながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着たい服を選んでもらったり、かける時には化粧したりできるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付けと一人一人のできることを職員と一緒にを行い、時には職員が教えてもらっている。	食事は職員が交代制で、委託業者の食材・献立に沿って調理をしている。定期的にテイクアウトをしたり、流しそうめんなど季節に応じた企画で楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の量を記録に残している。また食べやすい形状や好みも把握し、出来る限り偏りがないよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの促しから必要に応じた介助も行っている。また、訪問歯科からの助言もいただきながら支援に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表も活用しながら一人一人の排泄のパターンを把握し、出来る限りトイレで排泄ができるよう支援している。	排泄記録があり、記録に基づき時間を見てトイレ誘導している。失禁があった場合は、本人を傷つけないように、配慮して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操でや家事で身体を動かす、飲水量の把握、医師との相談後の下剤の使用を行い、必要に応じて腹部マッサージも行い、便秘にならないよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入りたい時間に入れるよう無理強いはいしなない声かけを行っている。	浴槽は1階にリフト式、2階に昇降式を設置し、利用者に合わせた浴槽で対応している。ゆず湯・菖蒲湯・大根湯など季節の入浴を楽しんでもらうようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は本人の生活の様子を見ながらベッドやソファで休む時間も助めている。就寝時間は職員が決めず、寝たい時に眠ることができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、薬剤師、看護師から薬の説明を受け、内服後の症状の変化も伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前に好きだったことに捉われず、新しく好きになるかもしれないことも大切にする。支援を心掛けている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響もあり積極的には行っていないが、近隣の散歩には行きたい時に行く事ができるよう支援している。	コロナ禍で外出は難しい状況ではあるが、近隣の散歩には出かけている。また、家族と相談しながら、冠婚葬祭などへの外出は支援している。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近所の自動販売機での自由な買い物や近隣の店舗で買い物するときには好きな物が自分で買えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人の携帯電話の使用やホームの電話やタブレットによるLINE通話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた掲示物を一緒に作成し飾っている。リビングの常時換気により室温が下がり過ぎないように暖房などで調整を行っている。	リビングは明るく、食卓やいすの他にソファが置かれ、ゆっくりと過ごせるようにしている。現在は室温は保ちながら、喚起にも注意しており、窓を開けるとともに空気清浄器も設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TVや新聞を見たり、ソファーや空席で自由に過ごしたりできるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具を持ってきてもらい、生活しながら必要な物を増やすなどの工夫をしています。	明るい居室には、家族の写真や家具、置物、テレビなど、これまで自宅に置いていたものを持ってきており、利用者が安心して過ごせるような居室にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの構造の中に必要に応じて手摺りや案内を増やし、わかりやすく安全に生活できるよう工夫しています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと